

安全データシート(SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	NOROCON anti - MOLD
製品コード	ARCH COG M
会社名	ガーデンシステム株式会社
住所	東京都世田谷区大蔵1-16-10 4F
電話番号	03-6450-2919
緊急時の電話番号	090-2151-6276
FAX番号	03-3749-2025
メールアドレス	info@norocon.net
推奨用途及び使用上の制限	工業用、建材、コーティング剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
健康に対する有害性	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類できない
	酸化性個体	分類対象外
	有機過氧化物	分類対象外
	金属腐食性物質	区分外
	急性毒性(経口)	区分5
	急性毒性(経皮)	区分5
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	分類できない	
皮膚感作性	分類できない	
生殖細胞変異原性	区分2	
発がん性	分類できない	
生殖毒性	区分1B	
環境に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) (気道刺激性、呼吸器系)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) (骨、歯、呼吸器系)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	分類できない
	水生環境の有害性	分類できない

ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害のおそれ
強い眼刺激
遺伝子疾患のおそれの疑い
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
水生生物に有害

注意書き
【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
他の容器に移し替えないこと
粉塵・煙・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと(禁煙)。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

呼吸用保護具を着用すること。
直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
特別な処置が必要である(SDS 4.応急措置参照)
無理に吐かせないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
物的被害を防止する為にも流出したものを吸収すること。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

【保管】

眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合:医師の診断、手当てを受けること
ばく露又はその懸念がある場合:医師の診断手当てを受けること
呼吸に関する症状が出た場合:医師の診断手当てを受けること
酸と反応してゲルを発生する為、酸との混載を避けること
凍結すると変質する為、凍結禁止。密閉して5~35°Cで保管すること
耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

1) 化学物質・混合物の区別 混合物

成分	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号(化審法)	官報公示整理番号(安衛法)	PRTR法 種別
シリカ	5.0～30%	7631-86-9	1-548	—	—
スチレンアクリル酸エステル共重合体	5.0～30%	非公開	6-252	—	—
有機窒素系化合物	非公開	非公開	非公開	非公開	—
イミダゾール系化合物	1.0%未満	非公開	—	—	2-095
水	非公開	7732-18-5	—	—	—

*結晶性のシリカは含まない(原料及び製造工程による) *これら値は製品規格値ではない

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪くなった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。異常が改善しない時は、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。溶剤、シンナーを使用しない。

皮膚刺激が生じた場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再利用する場合には洗濯をすること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。眼の中にすべて水が行き届くように洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。嘔吐物を飲み込ませてはならない。

医師の診断／手当てを受けること。無理に吐かせないこと。被災者に意識のない場合には、口から何も与えてはならない。

予想される急性症状及び遅発性症状

データなし

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

救助者は必要に応じて適切な保護具を着用すること。

適切な換気を確保する。

医師に対する特別注意事項

安静と症状の医学的な経過観察が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤

水や、粉末消臭剤、泡消火剤、ハロゲン化物消火剤を用いる
(本製品自体は燃焼しないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である)

使ってはならない消火剤

特になし

特有の危険有害性

特になし

特有の消火方法

消火作業は、ガスの滞留しない場所で風上から行き、漏洩防止処置を行う。危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合には容器及び周囲に散水し冷却し、容器の破裂を防止する。本製品自体は燃焼しないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。乾燥物の火災の際は、安全に対処できるならば着火元を除去し、消火剤を用いて消火する。延焼しないよう水スプレーで周囲を冷却する。

消火を行う者の保護

火災発生場所の周辺に、関係者以外の立入りを禁止する。救助者は、状況に応じて適切な保護具(空気呼吸器、耐熱性防護衣)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止して二次災害を防止する。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

環境に対する注意事項

回収時に海、河川等に流入しないようにし、環境中に放出してはならない。

回収・中和

少量の場合には、ウエス等で拭き取る。大量の場合には漏洩物を乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆ってポンプ等でドラム、タンクまたはローリーに回収し、速やかに廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策
安全取扱い注意事項

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い保護具を着用する皮膚との接触を避けること。

眼に入れないこと。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

屋外または換気の良い場所のみ使用する。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

「10.安全性及び反応性」を参照。

取扱い後はよく手を洗うこと。

消防法の規則に従うこと。

酸類との混触を避ける「10.安全性及び反応性」を参照。

保管温度 :5~35℃ 日光から遮断すること。凍結厳禁。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉して保管場所に施錠すること。

ポリ容器に密閉して保管する。

保管 接触回避
衛生対策
技術的対策
混触危険物質
保管条件
容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度
許容濃度 ACGIH
日本産業衛生学会

該当成分なし

記載なし

[シリカ] 第三種粉塵として 吸入性粉塵2mg/m³ 総粉塵8mg/m³

設備対策

この物質を貯蔵又は取り扱う作業場には、手洗い、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置すること。

作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具 呼吸器の保護具
手の保護具

適切な呼吸用保護具を着用すること。

液体が浸透しない適切な保護手袋を着用する。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学飛沫用のゴーグル又は眼鏡、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。液体が浸透しないものを着用する。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态 形状
色
臭い
pH

液体

乳白色

特異臭(わずかなアクリル臭)

8~10

融点

0℃以下

沸点、初留点及び沸騰範囲

約100℃(水と同等と推察する。)

引火点(℃)

データなし(製品は不燃性だが、製品の乾固物は可燃性である)

燃焼又は爆発範囲の上限・下限

データなし

蒸気圧

データなし

比重(密度)

約1.1

自然発火温度(℃)

データなし

溶解性

水中で容易に分散

10. 安定性及び反応性

反応性

無機酸・有機酸と反応して、ゲルを生成する。

安定性

常温・密封での保存条件下で安定であり、燃焼・自然発火等の危険性はなく、水・空気との接触による反応性はない。

危険有害反応可能性

なし

避けるべき条件	酸と反応してゲルを発生するので、酸との混触を避ける。 高温を避ける。
混触危険物質	酸と反応してゲルを発生するので、酸との混触を避ける。
危険有害な分解生成物	分解時、燃焼時に有毒、刺激性のあるガスを生じる可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	混合物としてのデータなし 既存成分: シリカ ラット LD ₅₀ >5000mg/Kg
	経皮	混合物としてのデータなし 既存成分: イミダゾール系化合物 2000mg/Kg
	吸入	吸入(ガス): 液体である 吸入(蒸気): 混合物としてのデータなし 既存成分: スチレン-アクリル酸エステル共重合体 取扱い時に蒸気を吸入すると、頭痛を起こす場合がある 吸入(ミスト): 混合物としてのデータなし
皮膚腐食性・刺激性		混合物としてのデータなし 既存成分: スチレン-アクリル酸エステル共重合体 取扱い時に皮膚に付着したままにすると、炎症を起こす場合がある 既存成分:イミダゾール系化合物 刺激性なし(家兎)
眼に対する重篤な損傷・刺激性		混合物としてのデータなし 既存成分: スチレン-アクリル酸エステル共重合体 取扱い時に眼に接触すると、炎症を起こす場合がある
呼吸器感作性		混合物としてのデータなし
皮膚感作性		混合物としてのデータなし
生殖細胞変異原性		混合物としてのデータなし
発がん性		混合物としてのデータなし
生殖毒性		混合物としてのデータなし
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)		混合物としてのデータなし
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)		混合物としてのデータなし
吸引性呼吸器有害性		混合物としてのデータなし

12. 環境影響情報

生態毒性	水生生物に有害
水生環境急性有害性	混合物としてのデータなし
水生環境慢性有害性	混合物としてのデータなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	混合物としてのデータなし(イミダゾール系化合物)
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
他の有害影響	漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。特に製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。
汚染容器及び包装	空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

成分名	イミダゾール系化合物
国連番号	3082
品名	環境有害物質(液体)
クラス／等級	9
容器等級	III
緊急時応急措置指針番号	171
国際規制	海上規制情報 IMOの規定に従う。 航空規制情報 ICAO/IATAの規定に従う。
国内規制	陸上規制情報 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。 海上規制情報 船舶安全法に定められている運送方法に従う。 航空規制情報 航空法に定められている運送方法に従う。
特別安全対策	「7.取り扱い及び保管上の注意」の記載に従う事。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、落下、転倒もしくは破損しないように積載し、荷崩れ防止を確実にを行い運搬すること。

15. 適用法令

消防法危険物	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
表示対象物質	該当しない
通知対象物質	該当しない
有機則・特化則	該当しない
化学物質審査規制法	既存化学物質 シリカ:1-548 既存化学物質 アクリル酸アルキルエステル・アクリル酸メタクリル酸グリシジル共重合体:6-252
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第2種指定化学物質:イミダゾール・チアゾール系抗菌剤
船舶安全法	有害性物質
海洋汚染防止法	シリカ:有害でない物質(施行令別表第1の2)(排出の禁止)規制は受けない
航空法	その他の有害性物質

16. その他の情報

引用文献	1) JIS Z 7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) 2) JIS Z 7252 GHS に基づく化学品の分類方法
------	--

本記載内容は現時点で入手可能な資料、情報データ、当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学物質には未知の有害性が有り得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。記載内容のうち、含有量、物理的性質等の値は保証値ではありません。また、特別な取り扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。使用前のテストを含め、当該製品の適正に関する決定は使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。